

学位論文審査の結果の要旨

深町 篤子

本研究は溪畔林の林床に生育するネコノメソウ属の植物の共存機構を明らかにすることを目的に、ネコノメソウ属の種の分布や生育環境について、日本スケール、流域スケール、林分スケールの3つのスケールで検討した。日本スケールでの研究では、日本に分布する主要なネコノメソウ属の種を5つの分布型に類型するとともに、これらが主に山地溪畔林に分布の中心を持つことを明らかにした。渡良瀬川上流域で行った流域スケールの研究では、ネコノメソウ属5種が水の営力が形成に大きく関わる地形上に成立するシオジ優占林に偏在することなどを明らかにした。林分スケールでの研究では、ネコノメソウ属5種のミクロハビタットの違いには、地形や微地形が作り出す環境などが階層性を持って複合的に働いていることを示唆するとともに、共存関係が保たれる空間スケールについて検討を加えた。そして、これらの5種は資源配分を少しずつ違い、適応的なミクロハビタットに同種で集合することで林分スケールでの共存を可能にしていると結論づけた。

以上のように、本論文は多くの新たな知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値のあるものと判断し、合格と判定した。